

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091100505		
法人名	社会福祉法人 恵光会		
事業所名	グループホーム 光の丘		
所在地	福岡市南区若久団地9-1 (電話) 092-984-0013		
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 1 日	評価結果確定日	令和 6 年 12 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

特別養護老人ホームを併設、隣接する敷地には母体法人の病院や介護老人保健施設があり、24時間体制で医療・介護を提供できる体制である。
事業所理念の「地域住民の一人として」の実現の為地域（団地内）で行われているカフェやサロンへ参加したり、当施設主催で月1回地域住民向けの健康フェスタを開催したりと地域活動に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 6 年 10 月 17 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

母体法人は地域重視の医療を実践している病院であり、事業所に隣接しているため、医療のサポートに優れている。熟練した職員が多く、丁寧な介護を実践し、利用者の立場に立って介護を行っている。法人で行事を行ったり、地域の行事への協力や参加を行う等交流が活発である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域住民の一人としてその人らしい暮らしを続けられるように支援する事を理念として掲げ、毎日朝礼時に唱和し日頃の実践に繋げるよう努めている。	事業所独自の理念があり、朝礼で職員が唱和し、理念の意識づけを行っている。介護職員は理念をよく理解し、現場で実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回開催されている団地コミュニティ主催の「カフェ」に利用者とその家族で参加している。 当施設主催で月1回地域住民向けの健康フェスタを開催している。 地域にある喫茶店を利用し利用者とその家族と誕生日に外食している。	事務所や母体の病院、特養、URと行事等で連携を行っており、法人との共同主催によるハロウィンパーティを開催している。近隣の大学や、障害者団体経営のレストラン、カフェとの交流や月1回開催する健康フェスタ等、地域交流を活発に行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症について話をしたりして地域の人々に向けて発信している。 月1回開催の健康フェスタの際に参加された地域住民の相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月月に1回運営推進会議を開催し、利用者やサービスの実際を報告できている。 評価への取り組み状況等についても報告し意見を頂いている。	2か月に一度、運営推進会議を開催しており、利用者へのサービス、評価への取り組み等を報告している。利用者の外出について提案があり、園芸公園へ出向いたり、お誕生会にはレストランでの食事をしたりしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	前回の外部評価の報告に市役所担当部署に出向き、書類の提出を行った。 いきいきセンターの担当職員とは2ヶ月1回の運営推進会議で意見交換し、協力関係を築けている。	地域包括支援センターと検討会を実施したり、日頃から市役所へ事務所の状況を報告して関係性を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止委員会に毎月参加、また法人内研修を年に2回行い、参加して正しい知識を理解するようにしている。 各ユニットの玄関の鍵は常に開放し、建物玄関の鍵は夜間以外は開放し、事務職員等で常時見守りができる体制をとっている。	日中、玄関や居宅の施錠を行っていない。 同法人の他事業所と合同で身体拘束廃止委員会を毎月開催しており、身体拘束廃止に関する研修を年2回行っている。また、出席できなかった職員向けに伝達研修を実施し、全職員が学べるようにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月委員会に参加し報告する事で職員一人一人が注意を払い、虐待防止に努めている。 年2回の法人内研修にも参加し知識を得ている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名成年後見制度を利用中。 法人内や外部研修に参加し権利擁護に関する制度について理解を深めている。 日常生活自立支援に関しては毎月認知症ケア会議を行い、話し合い活用している。	法人で成年後見制度等の権利擁護について研修を実施する等、職員が学んでいる。事業所内にはパンフレット等の資料を準備している。契約時に利用者と家族へ説明している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際家族や利用者の不安が少しでも軽減できるよう、細かく丁寧に説明を行うようにしている。 後日いつでも質問に答えられる環境も整えている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し家族の意見を聴くようにしている。 利用者から要望があればできる範囲で対応、対応が厳しい場合は家族に相談し対応。 希望を反映できるようにしている。	利用者と職員の関係性を良好に築いており、利用者は、日常的に意見や思いを伝えている。食べ物、毎週の教会へのミサ参列、プロ野球のユニフォームを着ての応援等の希望があり、対応している。家族会を年に2回開催し、現状報告や家族間の懇親、意見交換を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の行事に担当職員を割り当て、担当者に企画・実行してもらっている。 月1回のケア会議の際業務についての意見や提案なども聞いて今後に反映させている。	日頃から、職員が管理者に意見を伝えている。毎月の行事は職員が主体性をもって取り組んでおり、事業所の運営に生かしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップのために外部研修等への参加を促している。 年3回賞与時に自己評価を行なっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>性別・年齢等制限なく幅広い世代で採用している。</p> <p>定年退職後も採用延長の制度がある。</p> <p>法人内事業所への異動も可能で、能力や適正に合わせて働くことが出来るように配慮している。</p>	<p>職員の定年は65歳だが、希望によりその後は一年ごとの更新で働くことができる。</p> <p>職員の希望や適性に応じて配置が考えられている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人内研修で人権教育を組み入れ、参加している。</p> <p>参加できない職員も後日資料等回覧し、伝達研修している。</p>	<p>全職員が人権についての内部研修、伝達研修を受けており、ハラスメントに関する外部研修を受講する等、様々な内容を学んでいる。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部・外部研修に参加している。</p> <p>興味のある研修や認知症介護実践者研修等スキルアップできるようにしている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修に参加の際他事業所の職員と交流できるよう研修参加を促している。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始（契約）前に本人・家族と面会したり、施設や病院等の職員から聞き取りを行っている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始（契約）前に家族に施設見学をして頂き、その際聞き取りを行っている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要とされていることを挙げ、優先順位を決め介護計画に沿って支援するようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の訴えを傾聴し出来ることは一緒に行っている。(洗濯物たみなど)創作活動の壁紙作りなど声掛けし、一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に近況報告をし、要望など家族の意見も聞いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暑中見舞いや年賀状を作成し、家族や親しい人に出すようにしている。月1回の定期受診後に病院売店(コンビニ)に寄って昼食を摂られていた方に、現在も同支援を継続している。	管理者と職員は、利用者の生活歴や個性をよく理解している。知人、友人の訪問がある等、利用者が地域との関係を維持できるように心がけている。利用者が年賀状や暑中見舞いを書く支援をしたり、衣類の購入に際しては利用者の生活していた近くの店に職員が付きそう等している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士近くの席に配置したりしている。会話中にトラブルになった際は席替えをしたり、職員が仲介に入るようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前併設の施設に移動した利用者や家族に会った際は声掛けを行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で利用者の意向や希望を聴いて、把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には家族等関係者から情報を得るようにしている。	職員同士で協力して利用者の意向や思いを把握している。利用者本位の視点でより良い支援を行うよう考えており、利用者ごとに食事の味付けを変える等、介護に生かしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中や家族からの聞き取りで確認し、把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の思いや意志を優先した過ごし方をして頂き、本人のその日の情緒や有する力等職員間の申し送りで把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者と家族の意向を踏まえた上で、担当職員を中心に他スタッフの意見を聞いて、カンファレンスで検討し作成している。基本3か月に1回、また状態変化に応じてモニタリングを行い、計画の見直しをしている。	介護計画は、3か月に1度見直しを行っており、毎月のケア会議で話し合い、職員や面会に来た家族からも意見を参考に作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録以外で申し送りノートを活用し職員間で情報共有を行い、各担当職員を中心にモニタリングを実施し、見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の記録（ケース記録など）に本人の訴え（ニーズ）を記録し職員間で共有し、都度支援の変更等を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回開催されている団地コミュニティ主催の「カフェ」や、月1回開催の健康フェスタ（当施設主催）にも参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本法人医療機関としているが、利用者や家族の希望する医療機関への受診も可能で、受診方法などは家族と相談し支援している。診察結果などは情報を共有し連携して対応している。	同法人の医療機関がかかりつけとなっていることが多いが、利用者と家族へ確認し、希望に添って対応している。外部受診は家族の協力を得ており、事業所と家族で情報を共有して円滑な受診に繋げている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告・相談し合いながら適切な対応ができるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人の医療機関と連携を取り定期的に情報収集を行っている。 他医療機関の際は家族と連携を取り合って現状把握に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居（契約）時に重症化や終末期に向けた方針について説明し意向の確認を行っている。 利用者や家族の意向を踏まえた上でかかりつけ医や職員も含めて話し合い、方針を共有して支援している。	事業所独自の対応方針を明確にしている。契約時に、本人や家族へ分かりやすく説明している。また、利用者の状況に応じて利用者、家族、事業者間にて繰り返し話し合いの場を設けることで合意形成を図っている。同法人の医療機関の医師や併設の特養の看護師と密な連携体制を構築しており、現場職員の不安や負担の軽減にも繋がりが支援の質の向上を図っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修に参加し、実践力を身につける努力をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設の特別養護老人ホームと合同で避難訓練を実施している（うち1回は夜間を想定、残り1回は消防署立会いのもと）地域にも実施を発信し、参加協力頂いている。	併設の特養と連携し、マニュアルを作成している。消防署の協力も得て、年2回の避難訓練を実施し、内1回は夜間を想定して実施している。運営推進会議の際に民生委員やURアドバイザーを通じて地域住民にも呼びかけており、参加がある。また、消防署指導のもと、避難経路の確認と消火器の使用方法について学んでいる。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を大切にし、プライバシー保護の内部研修にも参加し、知識を深めている。現場で気になる事があれば都度職員に指導を行っている。	利用者の尊厳や意向、希望を大切にしており、個別支援を行う際にはさりげない声かけをする等十分に配慮している。また、職員が内部研修を受講する等プライバシーに配慮した支援について学んでいる。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴する際入られるかどうかの確認をし、入りたくないと言われれば無理強いせず、本人の希望を優先し日にちを変更したり、清拭に切り替えたりしている。その日着る服を自己決定できる方には自身で選んで頂く様にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて過ごしたいと思われる方には居室にて過ごして頂き、ホールにて過ごされている方には寂しさや不安を感じさせないようにレクリエーションを楽しんで頂いている。レクリエーションへの参加も無理強いせず個々の自由時間を大切に頂く様掛けするようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が施設内で理美容を受けられるように訪問理美容を実施している。朝起床後化粧を希望される利用者には自ら化粧が出来るようにセッティングを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は厨房で作っているため一緒に作ることはできないが、下膳車で食器を厨房に返しに職員と一緒にいく事もある。プランターにミニトマトやいちごを栽培して、職員と一緒に育て収穫し食した。	食事は併設の特養で調理している。利用者は職員と一緒に片付けを行っている。園庭のプランターにミニトマトやいちごを利用者とともに栽培から収穫まで行っており、おやつで提供する等、食事を楽めるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や硬さなど利用者に合わせて変更している。 水分摂取量の少ない方には嗜好に合わせて甘くしたり、ジュースを提供するなど味を工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし必要に応じて介助している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基にトイレ誘導を行っている。 月1回のケアカンファレンスにて排泄の状況と改善について話し合い、おむつやパットを利用者一人ひとりについて見直しを行っている。	職員はタブレットを使用して排泄パターンを把握している。各利用者の残存機能を活かすことが出来るように、支援している。 同法人の医療機関に入院した場合は職員が病院へ訪問し、直接動作確認をしたり病院の職員と情報共有を行う等連携して支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取を促し、食後はできるだけ便座に座る時間を設けている。 毎日テレビ体操や散歩（歩行運動）への参加を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は週2回を基本としてあらかじめ曜日でも決めているが、体調や希望に応じていつでも対応できるように準備している。 拒否のある方には言葉かけなど工夫して行っている。	風呂は毎日準備しており、希望に応じて対応している。入浴を望まない利用者には、入浴所にのれんをかけてその利用者が好きな盆踊りの曲を流して職員が踊りながら、利用者の気持ちを盛り上げて、入浴の意欲を高める等、工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときは一緒にフロアでテレビを観て過ごしてもらったり、おしゃべりをして過ごしてもらっている。 居室の室温を空調で調整したり、かけ布団を別の物に変えたりして調整している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と照らし合わせ2名でダブルチェックしながらセティングしている。与薬の際も2名で声出し確認を徹底している。介護職員は様子観察し、異常があれば看護師に報告・相談するようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品に関しては必要に応じてお菓子や果物・ご飯のお供など家族に差し入れして頂いている。エレベーターホールに出てソファでくつろぎ、缶コーヒーを買って飲まれている方もいる。「気分転換で外の空気が吸いたい、人の役にも立ちたい」と言われ中庭に出て草取りをされた方もいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・気候に応じて敷地内を散歩している。年2回外出支援でドライブし遠出する計画を立てている（4月開催・次回11月予定）誕生月に家族と協力して近隣の喫茶店などに外食に出かけている。	利用者の家族の協力のもと、買い物や外食、ドライブ等の外出を行っている。散歩は毎日行っており、外食や買い物に出かけている。家族協力のもと毎週日曜日にもミサに出かけている利用者もあり、1人ひとりの希望に合わせている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名お金の管理をされている方がいる。毎月の受診時の支払いや毎日自販機で缶コーヒーを自ら購入されている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1名携帯電話を所持している方がいて、家族とメールでやり取りを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室・共用空間共に温度調整をして快適な空間作りをしている。季節を感じて頂く為に壁に装飾を行っている。	共有空間は、とても明るい雰囲気であり、居心地の良い空間となっている。天井や壁面には利用者手作りの作品と職員がハロウィンの飾りなど季節を感じさせる手作りの作品を飾っている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>都度席を移動したり、利用者がどなたとでも仲良くできるように配慮している。月1回の行事は2ユニット合同で行い交流を図っている。</p>		
56	23	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族写真や飾り物・アルバム、お気に入りの寝具など持ち込まれている。</p>	<p>居室は、家具や飾り物等利用者の馴染みのものが持ち込まれており、今までの生活を感じさせる雰囲気になっている。室内も明るく、清潔感があり、日々の生活を過ごしやすい環境である。</p>	
57	—	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者が安心・安全に移動できるように動線の確保に心掛けている。物の配置は極力変えないようにしている。</p>		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
			○	③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域住民の一人としてその人らしい暮らしを続けられるように支援する事を理念として掲げ、毎日朝礼時に唱和し日頃の実践に繋げるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回開催されている団地コミュニティー主催の「カフェ」に利用者とその家族で参加している。 当施設主催で月1回地域住民向けの健康フェスタを開催している。 地域にある喫茶店を利用し利用者とその家族と誕生日に外食している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症について話をしたりして地域の人々に向けて発信している。 月1回開催の健康フェスタの際に参加された地域住民の相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者やサービスの実際を報告できている。 評価への取り組み状況等についても報告し意見を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	前回の外部評価の報告に市役所担当部署に出向き、書類の提出を行った。 いきいきセンターの担当職員とは2ヶ月1回の運営推進会議で意見交換し、協力関係を築けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止委員会に毎月参加、また法人内研修を年に2回行い、参加して正しい知識を理解するようにしている。 各ユニットの玄関の鍵は常に開放し、建物玄関の鍵は夜間以外は開放し、事務職員等で常時見守りができる体制をとっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎月委員会に参加し報告する事で職員一人一人が注意を払い、虐待防止に努めている。 年2回の法人内研修にも参加し知識を得ている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在ユニット1に1名成年後見制度を利用中の利用者がいる。 法人内や外部研修に参加し権利擁護に関する制度について理解を深めている。 日常生活自立支援に関しては毎月認知症ケア会議を行い、話し合い活用している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際家族や利用者の不安が少しでも軽減できるよう、細かく丁寧に説明を行う様にしている。 後日いつでも質問に答えられる環境も整えている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し家族の意見を聴くようにしている。 利用者から要望があればできる範囲で対応、対応が厳しい場合は家族に相談し対応。 希望を反映できるようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の行事に担当職員を割り当て、担当者に企画・実行してもらっている。 月1回のケア会議の際業務についての意見や提案なども聞いて今後に反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップのために外部研修等への参加を促している。 年3回賞与時に自己評価を行なっている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別・年齢等制限なく幅広い世代で採用している。 定年退職後も採用延長の制度がある。 法人内事業所への異動も可能で、能力や適正に合わせて働くことが出来るように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内研修で人権教育を組み入れ、参加している。 参加できない職員も後日資料等回覧し、伝達研修している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に参加している。 興味のある研修や認知症介護実践者研修等スキルアップできるようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加の際他事業所の職員と交流できるよう研修参加を促している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始（契約）前に本人・家族と面会したり、施設や病院等の職員から聞き取りを行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始（契約）前に家族に施設見学をして頂き、その際聞き取りを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要とされていることを挙げ、優先順位を決め介護計画に沿って支援するようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の訴えを傾聴し出来ることは一緒に行っている。（洗濯物干し・たみみ食器拭きなど）創作活動の壁紙作りなど声掛けし、一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に近況報告をし、要望など家族の意見も聞いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暑中見舞いや年賀状を作成し、家族や親しい人に出すようにしている。 入居前より購読していた新聞を取り寄せて、購読を継続されている利用者がある。 毎週日曜にミサ出席の為家族と外出し食事をして帰って来られる利用者がある。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士近くの席に配置したりしている。 会話中にトラブルになった際は席替えをしたり、職員が仲介に入るようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前併設の施設に移動した利用者や家族に会った際は声掛けを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で利用者の意向や希望を聴いて、把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者には家族等関係者から情報を得るようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中や家族からの聞き取りで確認し、把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の想いや意志を優先した過ごし方をして頂き、本人のその日の情緒や有する力等職員間の申し送りで把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者と家族の意向を踏まえた上で、担当職員を中心に他スタッフの意見を聞いて、カンファレンスで検討し作成している。 基本3か月に1回、また状態変化に応じてモニタリングを行い、計画の見直しをしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録以外で申し送りノートを活用し職員間で情報共有を行い、各担当職員を中心にモニタリングを実施し、見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の記録（ケース記録など）に本人の訴え（ニーズ）を記録し職員間で共有し、都度支援の変更等を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回開催されている団地コミュニティ主催の「カフェ」や、月1回開催の健康フェスタ（当施設主催）にも参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本法人医療機関としているが、利用者や家族の希望する医療機関への受診も可能で、受診方法などは家族と相談し支援している。診察結果などは情報を共有し連携して対応している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告・相談し合いながら適切な対応ができるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人の医療機関と連携を取り定期的に情報収集を行っている。他医療機関の際は家族と連携を取り合って現状把握に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居（契約）時に重症化や終末期に向けた方針について説明し意向の確認を行っている。利用者や家族の意向を踏まえた上でかかりつけ医や職員も含めて話し合い、方針を共有して支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修に参加し、実践力を身につける努力をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設の特別養護老人ホームと合同で避難訓練を実施している (うち1回は夜間を想定、残り1回は消防署立会いのもと) 地域にも実施を発信し、参加協力頂いている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を大切にし、プライバシー保護の内部研修にも参加し、知識を深めている。 現場で気になる事があれば都度職員に指導を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴する際入られるかどうかの確認をし、入りたくないと言われれば無理強いせず、本人の希望を優先し日にちを変更したり、清拭に切り替えたりしている。 その日着る服を自己決定できる方には自身で選んで頂く様にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて過ごしたいと思われる方には居室にて過ごして頂き、ホールにて過ごされている方には寂しさや不安を感じさせないようにレクリエーションを楽しんで頂いている。 レクリエーションへの参加も無理強いせず個々の自由時間を大切に頂く様声掛けするようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が施設内で理美容を受けられるように訪問理美容を実施している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は厨房で作っているため一緒に作ることはできないが、下膳車で食器を厨房に戻しに職員と一緒にいく事もある。 プランターにミニトマトやいちごを栽培して、職員と一緒に育て収穫し食した。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や硬さなど利用者に合わせて変更している。 水分摂取量の少ない方には嗜好に合わせて甘くしたり、ジュースを提供するなど味を工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし必要に応じて介助している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基にトイレ誘導を行っている。 月1回のケアカンファレンスにて排泄の状況と改善について話し合い、おむつやパットを利用者一人ひとりについて見直しを行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取を促し、食後はできるだけ便座に座る時間を設けている。 毎日テレビ体操や散歩（歩行運動）への参加を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は週2回を基本としてあらかじめ決めていたが、体調や希望に応じていつでも対応できるように準備している。 拒否のある方には言葉かけなど工夫して行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときは一緒にフロアでテレビを観て過ごしてもらったり、おしゃべりをして過ごしてもらっている。 居室の室温を空調で調整したり、かけ布団を別の物に変えたりして調整している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と照らし合わせ2名でダブルチェックしながらセティングしている。 与薬の際も2名で声出し確認を徹底している。 介護職員は様子観察し、異常があれば看護師に報告・相談するようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品に関しては必要に応じてお菓子や果物・ご飯のお供など家族に差し入れして頂いている。 エレベーターホールに出てソファでくつろぎ、缶コーヒーを買って飲まれている方もいる。「気分転換で外の空気が吸いたい、人の役にも立ちたい」と言われ中庭に出て草取りをされた方もいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・気候に応じて敷地内を散歩している。 年2回外出支援でドライブし遠出する計画を立てている（4月開催・次回11月予定） 誕生日に家族と協力して近隣の喫茶店などに外出に外食に出かけている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があればお金を所持して使える体制はあるが、現在希望者はおられない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	3名携帯電話を所持している方がいて、家族や友人と電話でやり取りをされている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室・共用空間共に温度調整をして快適な空間作りをしている。 季節を感じて頂く為に壁に装飾を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	都度席を移動したり、利用者がどなたとでも仲良くできるように配慮している。 月1回の行事は2ユニット合同で行い交流を図っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や飾り物・アルバム、お気に入りの寝具など持ち込まれている。 生まれ故郷の新聞や信仰されている宗教関係の冊子などを購読されている利用者がある。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安心・安全に移動できるように動線の確保に心掛けている。 物の配置は極力変えないようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 みの 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
			○	③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない